

平成30年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ

「グローバル社会を生き抜く魅力ある芦高、芦高生の創造 ～生徒・保護者の夢を叶える進路実現を～」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第2期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

- (1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
 - ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
 - イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。
- (2) 外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。
 - ア 特別枠で入学した生徒に、取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する。
 - イ 姉妹校提携した学校との交流、海外語学研修、留学生の受入れを通して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の伸張を図る。
- (3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
 - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
 - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する能力を育成する。
 - ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。
- (4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
 - ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての資質・能力の向上に努める。
 - イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。
- (5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
 - イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
 - ウ 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。
- (6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
 - ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
 - イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
 - ウ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

3 総合的な自己評価

- (1) キャリア教育については、進路課・ガイダンス課を中心に着実に取り組んでいるが、生徒自身が進路決定に役立っているという実感が低い。キャリアプランニング能力の育成を図るためには、今後、キャリアノートの活用を含めた発展的な取組を検討していくとともに、3年間をとおした継続的なキャリア形成につながるよう、「総合的な探究の時間」の在り方を検討していく必要がある。
- (2) 外国人生徒の支援については、モデル校3年目として教職員間での共通理解を通して支援体制の確立に繋げてきた。進路実現に向けての早期からの対応が求められる。多言語におけるカウンセリングの対応や他校、関係機関との更なる連携が必要とされる。姉妹校との交流や海外語学研修を通して異文化交流を促進できた。
- (3) 学力向上については、3年次の補習体制の確立や、2年次の芦高タイムαを継承した新聞記事を活用した思考力の育成、発信など、年次独自の取組みができた。新学習指導要領への移行、大学入学共通テストへの対応に向けて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた、「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善など、教職員のさらなる資質向上が求められる。また、読書離れの実態を改善していくために、図書課を中心に、図書館の学習センターとしての機能充実と活用を検討していく必要がある。
- (4) 地域との連携については、「高校生ふるさと貢献活動事業」などを活用した様々な活動や、地域を巻き込んだ積極的な防災教育の取組みにより、地域の高等学校として“芦高”への期待が高まった。その様子はオープンハイスクール、学校案内・広報紙の配布、ホームページ、各メディアにより発信をすることができた。今後、さらなる活動の在り方、情報発信について検討を進めたい。
- (5) 心の教育については、「教育相談体制」の認識が、保護者・教員アンケートに比べて、生徒が低くなっている。教職員の生徒理解及び学校教育全体をとおした道徳教育の取組みが求められる。

4 学校関係者評価総括

今年度の教育活動の報告から、先生方が芦高生のために頑張っている様子がひしひしと感じられた。書道部の活躍を中学生もよく知っており、一つの部活動が活躍すると学校の活性化やイメージアップにつながる。生徒のニーズが多様化する中で、それに対応して講座を用意している学校の努力はすばらしい。生徒指導についても、中学高側は制服の着こなしがちゃんとしているというイメージで見えており、生徒も保護者も安心して芦屋高校に行きたいと思っている。自治会の立場から、服装や身だしなみがよくなっており、注意をしても素直に聞いてくれる。ボランティア部の高齢者宅訪問へのお礼等々、概ね学校の取組みについて高評価を得た。一方で、卒業後、外に向かって活動的にやっていく意識を持たせてほしい。進路実現に向けて取組んでほしい。評価Cがついている項目について改善のポイントとしてほしい。テニスコートの整備等についてご意見を頂いた。

5 次年度に向けた重点的な改善点

高大接続改革、新学習指導要領実施に向けた教育課程の見直し、生徒の主体的な考察・活動を促す授業づくりを、単位制の特色を生かしながら進めていくとともに、地域社会に貢献する活動や防災活動など、地域を巻き込んだ芦屋高校の魅力が発信できる体験活動を充実させ、その成果をしっかりと広報していくことが重要である。

6 重点目標別自己評価結果

重点目標	実践項目	評価方法	評価	達成状況と改善の方策
<p>(1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実</p>	<p>①進路別説明会・AUSSキャンパスを活用して、生徒の進路意識の向上に努める。【進路】</p>	<p>①進路別説明会、AUSSキャンパス・インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。【進路】</p>	<p>B</p>	<p>① AUSSキャンパスの感想では、大半の生徒が受講分野に興味を持てたと答え、動機付けの機会にはなったが、進路に対する考えが深まったという答えはそれほど多くはなく、進路選択に向けてのフォローが必要であるといえる。進路別説明会については1, 2月実施の1, 2年生については講師の説明内容について改善を図り、ある程度の改善効果が見られた。【進路】</p>
	<p>②高大接続に対応した進路の取り組みを、各教科・年次と連携して準備する。【進路】</p>	<p>②年度末に総括を行い、年次からの意見をまとめて評価する。【進路】</p>	<p>B</p>	<p>②生徒の活動履歴の記録については、1年次と連携し芦高タイムαの協力を得て年度末に実施することで現在内容を検討中である。大学入試新テストについて、英語科と協議し4技能検定への対応について検討中である。【進路】</p>
	<p>③各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人一人の個性と進路希望に応じた履修計画を作成させる。【ガイダンス】</p>	<p>③ガイダンスブックを使用した「芦高タイムα」の時間を利用して履修登録計画を提出させる。「芦高タイムα」の活動全般及びその内容から評価する。【ガイダンス】</p>	<p>B</p>	<p>③「ガイダンスブック」「シラバス」については、生徒の64%、保護者の61%が活用したとの肯定的評価をしている。両冊子をさらに有効利用し、「芦高タイムα」の時間も活用しながら、科目登録を行わせる必要がある。【ガイダンス】</p>
	<p>④生徒が主体的に履修計画を作成できるように、各種資料や情報を適切に提供する。「進路ナビ」「仕事ナビ」などの行事を通じて高校生活の在り方や、将来の進路、自分の生き方を考えさせる。【ガイダンス】</p>	<p>④「進路ナビ」「仕事ナビ」などの行事の実践を通しての、生徒の感想等の内容から評価する。【ガイダンス】</p>	<p>B</p>	<p>④AUSSナビ関連行事については生徒の61%、保護者の56%が役立ったとの肯定的評価をしている。生徒や保護者の求めているような講義内容に近づけるように、講師との連絡調整を行い、工夫や改善を図りたい。【ガイダンス】</p>
	<p>⑤第1志望の進路を実現できる学力を身につけさせる。【3年】</p>	<p>⑤進路実績、センター試験、模擬試験の結果について例年と比較し、評価する。【3年】</p>	<p>B</p>	<p>⑤模擬試験の結果は低調であったが、例年並のセンター試験の結果であったことから、1年次から継続して実施している補習の取り組みなどが、まずまずの進路結果につながったと思われる。【3年】</p>
	<p>⑥新しい入試制度を見据え、進路実現のために主体的・計画的に活動することができる能力を涵養する。【1年】</p>	<p>⑥定期的に面談や進路LHRを行い、自分と向き合い目標を明確にさせる。また学習の振り返り記述を通し自分の現状を確認させる。【1年】</p>	<p>B</p>	<p>⑥模試の結果をふまえた進路LHRを行ったが、実感できていないところがある。さらに模試が続くために、継続して実施していくことが重要であると思われる。【1年】</p>
<p>(2)外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。</p>	<p>①外国人生徒への支援体制の充実をはかり、問題点の改善をはかる。【国際教育】</p>	<p>①当該生徒や保護者からの聞き取り内容や各教科の試験の達成度を分析し評価の基準とする。【国際教育】</p>	<p>B</p>	<p>①校内での支援体制が整い、課題への対応ができた。多言語におけるカウンセリングの対応や他校、関係機関との更なる連携が必要とされる。【国際教育】</p>
	<p>②姉妹校との交流や海外語学研修を通して異文化交流を促進する。【国際教育】</p>	<p>②本校や台湾での交流の様子や海外語学研修報告書等を通して評価する。【国際教育】</p>	<p>A</p>	<p>②姉妹校との交流や海外語学研修を通して、多文化の中での生徒のコミュニケーション力やプレゼンテーション能力の向上に成果が現れた。事後研修を通してこの力の維持を図る必要がある。【国際教育】</p>

<p>(3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p>	<p>① 進路実現に向けた自学自習の習慣を、補習などにより身につけさせ、主体的に学習する意欲を高める。【2年】</p> <p>② 自らの長所を伸ばし活かしていく前段階として、授業や小テストなどの地道かつ基礎的な取り組みや、清掃活動や行事における役割など、全ての取り組みに全力を尽くすことができる集団を目指す。【1年】</p> <p>③ 学習センターとしての図書館活動推進の指針造りを進める。【図書】</p> <p>④ 図書センターとしての充実を図る。【図書】 a) 配架・排架の日常的な点検 b) リクエストの継続 c) 教科・特別活動。「教育ビジョン」とリンクした図書の充実</p> <p>⑤ 「学校図書館利用に関する基本計画」の策定【図書】</p> <p>⑥ 芦高80年史編纂に向けての資史料収集・データベース化【図書】</p>	<p>① 模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査の分析により評価する。【2年】</p> <p>② 日々の生徒から目をそらさず、声かけを続け変化を確認する。【1年】</p> <p>③ 昨年度に完成した指針を生かした活動を行っている。【図書】</p> <p>④ 充実が図れているかどうか次の観点で評価する。 a) 廃棄基準の作成および実施／購入リストを作成している。 b) 図書委員会で決定、実施している。 c) 意図的に購入している。【図書】</p> <p>⑤ 「学校図書館利用に関する基本計画」の策定作成ができています。【図書】</p> <p>⑥ 資史料収集・データベース化が進んでいる。【図書】</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>C</p>	<p>① 学習意欲が高まってきた生徒は多いが、自学自習の習慣が定着した生徒は、まだそれほど多くはない。模擬試験の結果などにもそれが表れている。【2年】</p> <p>② 集団として少しずつ成長しているが、学習活動や進路に関しての意識はまだ甘い。すぐに結果が出ないがこつこつ努力することをしっかり評価していきたい。【1年】</p> <p>③ 図書館を利用した教科学習は一部の教科にとどまっている。また、学校評価アンケート（教員）の集計結果の平均点は1.9と極めて低い。【図書】</p> <p>④ 生活実態・学習状況調査から、一日の平均読書時間が極めて低いことが明らかとなっている一方で、情報源としての「本」の価値が見えにくくなってきている。 a) 「廃棄基準」にしたがって大幅な整理を行った。 b) 今年度も『Tarzan』をリクエスト本として購入。 c) 昨年同様、他文化理解・外国人生徒支援を意識した図書、手話・LGBT関連本などを優先的に購入。読書感想文課題図書などは複本購入するも、文芸関連は抑えた。図書購入費が少ないため選書には苦労している。【図書】</p> <p>⑤ 「主体的・対話的で深い学び」のために、学校図書館の活用をどう位置づけるのか、読書に親しむ習慣づけをいかに行えばよいのか、本に向かう時間をどのようにつけさせればよいのか、真の学びとは何か、こうした問題に対しての図書館利用オリエンテーション計画が必要な時期に来ており、「学校図書館利用に関する基本計画」の策定は急務となるができていないのが現状である。併せ、快適な読書空間を整備していく必要がある。【図書】</p> <p>⑥ データベース化に向けての作業は遅れている。【図書】</p>
<p>(4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上</p>	<p>① 日本学生支援機構給付奨学金の選考に関する手続き、基準、組織を明確にする。【総務】</p> <p>② 校務支援システム・成績処理の安定的な運用【教務】</p> <p>③ 教育情報ネットワークの更新に対する対応【広報情報】</p>	<p>① 選考基準や選考過程に対する学校内外からの意見をもって達成評価の基準とする。【総務】</p> <p>② 成績処理・出欠処理などの誤りのない確実な運用ができています。【教務】</p> <p>③ 年度末の時点で、対応状況の確認を行うことで評価する。【広報情報】</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>① 本年も滞りなく選考を行うことができたので、基準や過程に問題がないことが検証された【総務】</p> <p>② 答案の返却、成績処理について、プリントなどにより注意喚起をし、チェックシートも用意している。また、新システムへの一層の習熟を進める必要がある。【教務】</p> <p>③ 過去に例のない大規模な更新であったが、無事に対応することができた。他校と異なる独特な設定になっていた校内ネットワークを、この機を利用して県の一般的な設定に修正することができた。【広報情報】</p>

<p>(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進</p>	<p>①学校ホームページの充実 【広報情報】</p> <p>②学校広報誌（「芦高タイムズ」）の充実 【広報情報】</p> <p>③中学生および保護者、中学校教員に対して、「オープンハイスクール」、「学校説明会」などの行事を通じて単位制の特色を生かした学校の様子広報活動を行う。 【広報情報】</p> <p>④防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成をはかる。 【総務】</p>	<p>①・②ともに、校内および校外（オープンハイスクール等）アンケートにより評価する。 【広報情報】</p> <p>③「オープンハイスクール」「学校説明会」の参加者数、アンケートにより評価する。 【広報情報】</p> <p>④防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し評価の基準とする。 【総務】</p>	<p>B ①校内外アンケート（オープンハイスクール・学校説明会・学校評価）より、学校HPの閲覧の割合は昨年度並みとなっている。しかし「学校生活等に役立っている」と回答した生徒の割合は38.5%とあまり高くなく、校内向けに提供する情報の充実が課題である。 【広報情報】</p> <p>B ②今年度は年9回発行した。発行し始めてから4年目となるが、毎年同じ内容にならないようにするのは限界がきている。60%～70%程度の生徒・保護者が見ていると回答し、中学生でも約半数が見たことがあると回答していることから広報上の役割を果たしているが、来年度は見直しを検討したい。 【広報情報】</p> <p>B ③今年度はオープンハイスクールの半日が台風により中止となったが、参加予定者数は昨年度よりもさらに増加し、高い関心を集めている。しかし両行事ともに施設の収容可能人数の限界に近付いており、運用方法の工夫が必要となっている。 【広報情報】</p> <p>A ④生徒に訓練を通じて、主体的に思考し行動できること、地域社会との連携を密にしていくことの重要性を認識させる機会とすることができた。 【総務】</p>
<p>(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成</p>	<p>①自治会活動の活性化 【生徒課】</p> <p>②芦高生としての誇りと自覚の象徴である年次章を着用する姿勢、通学服を清潔に着こなす姿勢を育成する。 【生徒課】</p> <p>③最後まで基本的習慣を確立し、社会生活のルールと基本的なモラルを遵守する態度を身につけさせる。 【3年】</p> <p>④自治を身につけ、新しい伝統を築きあげる主体的な行動できる姿勢を育成する。 【2年】</p> <p>⑤代議員が中心となってクラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決の方法を見いだすことができる力を育む。 【1年】</p> <p>⑥カウンセリング指導の充実 【保健】</p> <p>⑦救急救命法の拡充 【保健】</p>	<p>①生徒・教員アンケートにより評価する。 【生徒課】</p> <p>②学期ごとの年次章・通学服検査の結果から評価する。 【生徒課】</p> <p>③生徒・保護者・教員アンケートにより評価する。 【3年】</p> <p>④新しい取り組みが生徒に根付いたかを、生徒・保護者・教員アンケートにより評価する。 【2年】</p> <p>⑤年次代議員会での意見交換と相互評価により評価する。 【1年】</p> <p>⑥カウンセリングの実施回数とコンサルテーションの実施内容の充実度により評価する。 【保健】</p> <p>⑦実施回数やその内容で評価する。 【保健】</p>	<p>B ①87%の生徒が学校を楽しんでいると感じながら通っている。執行部を中心とした記念祭や体育祭などの行事への主体的な取り組みに、おおよその生徒は満足していると考えられる。ただ、残りの13%の生徒の意識や授業や部活動などの日常生活の充実などまだまだ改善点も多い。 【生徒課】</p> <p>B ②通学服は94%、年次章は85%の生徒正しく着用していると回答しているが、検査における年次章の着用忘れも多く、年次章の歴史や存在意義を自覚していない。ただ、年次は協力的であり、新しい指導方法を模索している。 【生徒課】</p> <p>B ③年次章の着用等基本的なモラルをある程度守れている。 【3年】</p> <p>B ④自分を律し、自分で考えて主体的に行動できる生徒が増えてきてはいるが、まだ不十分である。 【2年】</p> <p>A ⑤委員会は回数も重ね、自分たちで意見を出し合えるようになった。ただ年次に浸透させることが今後の課題である。 【1年】</p> <p>A ⑥カウンセリング指導は必要な生徒に実施できた。回数も適正であり、予備も確保していたので、もう1名のカウンセラーと連携して有効に活用できた。また、コンサルテーションも保健課として十分にできた。 【保健】</p> <p>B ⑦救急救命法を3回計画したが、警報発令で2回しか実施出来なかった。内容的には充実していた。 【保健】</p>